

12/18
福井

県内12基 見えぬ展望

廃炉か延長か 5基は運転40年前後

高浜3、4号 審査合格

県内原発14基の現状

	安全審査	課題や特徴
美浜1号機	未提出	破砕帯の調査中。運転40年を超え、廃炉判断の可能性も
" 2号機	未提出	破砕帯の調査中
" 3号機	未提出	破砕帯の調査中
大飯1号機	未提出	格納容器内にある水で事故時の圧力を下げる特殊な構造
" 2号機	未提出	格納容器内にある水で事故時の圧力を下げる特殊な構造
" 3号機	昨年7月申請	津波高さなど審査中。耐震補強に時間
" 4号機	昨年7月申請	津波高さなど審査中。耐震補強に時間
高浜1号機	未提出	40年超えの運転延長を視野に特別点検中
" 2号機	未提出	40年超えの運転延長を視野に特別点検中
" 3号機	昨年7月申請	審査書案を了承
" 4号機	昨年7月申請	審査書案を了承
敦賀1号機	未提出	運転44年。2016年に運転終了方針
" 2号機	未提出	破砕帯が「活断層」の認定。審査申請を準備
もんじゅ	未提出	運転再開準備の禁止命令。新基準が未策定。破砕帯の調査中

原子力規制委員会が関西電力高浜原発3、4号機の審査書案を了承し再稼働へ道筋がついたが、県内の残り12基の方向性はまだ見えない。高浜の2基以外に再稼働の前提となる安全審査を申請しているのは大飯3、4号機のみ。関電の残り7基は運転開始から35年以上がたち、原発内の長

【大飯原発】東京電力福島第1原発事故後、唯一再稼働した大飯3、4号機は、高浜の2基とともに昨年7月に申請。審査で大幅な見直しを求められた基準地震動（耐震設計の目安となる地震の揺れ）は、今年10月末に了承された。現在は想定する津波の高さなどを審査中だが、地震動を大きく引き上げたため、耐震補強工事に時間がかかるとみられる。

大飯1、2号機は、格納容器内に備えた水で事故時に温度と圧力を下げる「アイスコンデンサ型」という特殊な構造。規制委は新基準を検討する段階で個別に議論しており、安全審査を申請すれば、過酷事故対策がポイントになりそうだ。

【高浜原発】運転40年、39年の高浜1、2号機は、関電が40年超え運転の延長申請に必要な「特別点検」に今月から着手。点検結果に問題がないと判断すれば、来春にも運転延長を申請する方向だ。2

016年7月までに延長申請の審査のほか、安全審査をクリアする必要がある。

【美浜原発】40年超の美浜1、2号機は出力規模が小さく、多額の安全対策費をかけたも採算性が合わないといれば廃炉を判断する可能性がある。同3号機も38年で、40年超えの運転延長をする場合、来年12月までに申請しなければならぬ。

美浜原発の場合、敷地内破砕帯が活断層かどうかを調べる規制委の評価会合が続いており、結論が出る前に安全審査に申請したとしても地震対策に時間がかかる。

【敦賀原発】日本原電の敦賀原発は厳しい状況が続いている。2号機は、規制委が直下の破砕帯を「活断層」と認定。原電は安全審査の申請に向け準備を進めているが、評価が覆らなければ廃炉を余儀なくされる可能性もある。運転44年の1号機は16年に運転終了する方針だ。

【もんじゅ】日本原子力研究開発機構の高速増殖炉もんじゅ（敦賀市）は、大量の機器の点検漏れ問題で運転再開の禁止命令を受け、解除に

大なケーブルが新規制基準で要求する燃えにくい材質ではない。仮に安全審査で交換を求められれば、多額の費用と期間が掛かる。次にどのプラントを申請するかは決まっていない（関電）段階だ。

県内には運転40年前後の古い原発は5基あり、運転延長か廃炉かの判断を迫られている。

向けて改革の最中。敷地内破砕帯の調査が続いているほか、高速度炉の新基準もまだ策定されていない。（青木伸一）

準備の禁止命令を受け、解除に